



南伊勢森林計画区における 次期計画の検討方向



大杉谷国有林からの遠望(大台町)

林野庁 近畿中国森林管理局
三重森林管理署

次期計画の検討方向

次期計画の検討方向

- 1 公益的機能の維持増進
- 2 林産物の持続的かつ計画的な供給
- 3 地域における産業振興及び住民福祉の向上への寄与

国有林の三つの基本方針に基づき、各事業・取組について、現行計画と同水準以上で計画していく考え。

次期計画の検討方向

さらに、次期計画において、公益的機能の維持増進に関して、次の3つの取組について重点的に計画

1 林地保全に配慮した森林施業の推進

→山地災害リスクの高い森林の機能類型を、「山地災害防止タイプ」に変更

2 育成複層林施業の推進

→水源涵養^{かん}タイプ的人工林について「複層林施業群」の比率を高かめる（人工林の複層林）。

→人工林施業に適さない森林については、針広混交林や天然生林に誘導していく（天然林施業群）。

3 自然度の高い森林の保全

→保護林周辺の自然度の高い森林に係る見直し

1 林地保全に配慮した森林施業の推進

森林は国土のおよそ7割を占め、地形は急峻で複雑かつ脆弱。また、近年全国各地で山地災害が激甚化しており、山腹崩壊、林道の損壊等広域にわたる大規模な山地災害が多発



国有林野では、従来から皆伐の伐採面積をおおむね5ha以下にするなど、公益的機能重視の管理経営を行ってきたが、今後、山地災害によるリスクを軽減するため、これまで以上にきめ細やかに林地保全に配慮した施業に取り組む。

具体的には、

- 山地災害危険地区等との位置関係を確認し、機能類型の見直しを図る（山地災害防止タイプへの変更）。
- 山地災害防止タイプのうち、急傾斜等に該当する小班をエリア指定し、林産物の搬出を原則として架線集材とする



山地災害危険地区の3区分

山地災害危険地区（山腹崩壊） 16箇所（南伊勢森林計画区）

(参考1)

機能類型区分ごとの公益的機能の維持増進

個々の国有林野を重点的に発揮させるべき機能によって5つのタイプに類型化し、それぞれの機能類型区分ごとに公益的機能の維持増進を旨とした管理経営を行います。

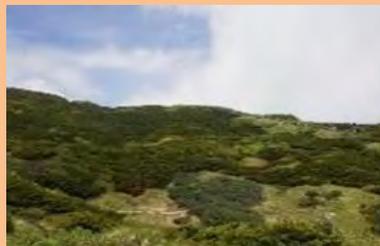
山地災害防止タイプ

土砂崩れや土砂の流出等による山地災害や飛砂、潮害等の気象災害を防ぐことを目的に整備する森林で、**山地災害危険地区等**の森林が該当



自然維持タイプ

原生的な森林生態系や貴重な動植物が生息・生育するなど特別な保全・管理が必要な森林で**保護林**や**保護林に準じる森林**等が該当



森林空間利用タイプ

国民の皆さんが森林とふれあう場として、また、森林ボランティア団体等の活動の場としての森林で、**レクリエーションの森**等が該当



快適環境形成タイプ

騒音の防備や大気の浄化等生活環境の形成を目的に整備する森林で、**住宅地との緩衝帯**となる森林等が該当



かん
水源涵養タイプ

洪水の緩和、水質保全等を目的に整備する森林で**5つの施業群**がある。



2 育成複層林施業の推進

森林・林業基本計画に掲げる森林の誘導目標に向け、近畿中国森林管理局においても、自然・社会的条件等を踏まえ、育成複層林への誘導を推進

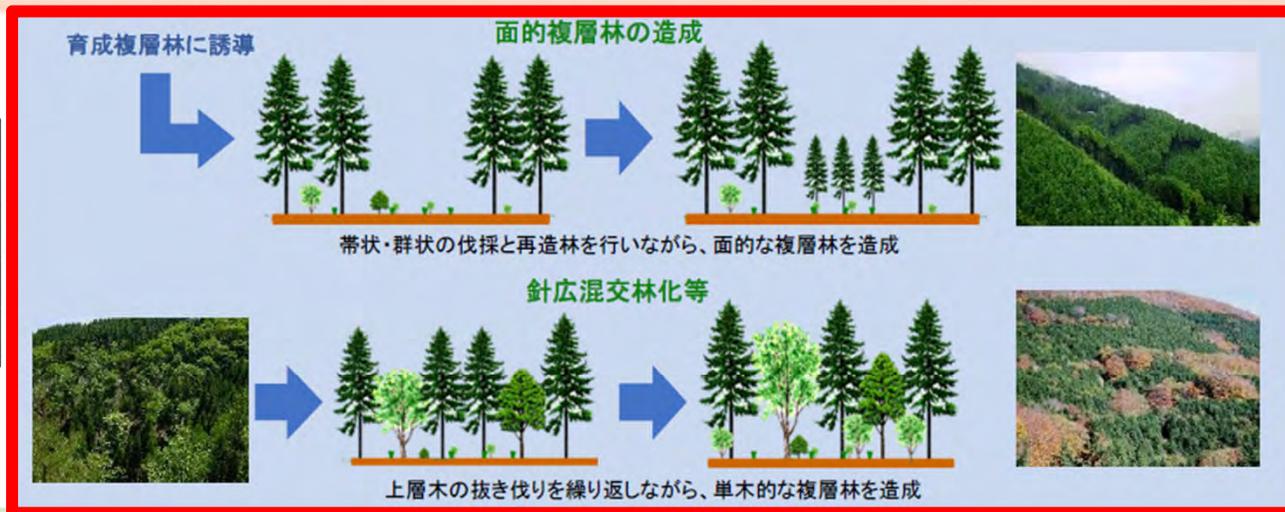


基本計画に掲げる森林の誘導目標

単位：万ha

	令和2年 (現況)	令和7年 (目標)	令和12年 (目標)
育成単層林	1,010	1,000	990
育成複層林	110	130	150
天然生林	1,380	1,370	1,360

育成複層林への誘導目標
5年間で20万ha(4万ha/年)



天然生林から
育成複層林に誘導

ナラ枯れ予防や放置された里山林の整備等

択伐を繰り返しながら、天然力を活用し、育成天然林を造成・維持

(参考2) 水源涵養^{かん}タイプの5つの施業群 (育成複層林と施業群の対応)

水源涵養^{かん}タイプには、目標とする森林に誘導、又はこれを維持するため、森林の現況や自然・社会的条件に応じて、5つの施業群を設けている。

天然林施業群

多様な樹種から構成される健全な林分



長伐期施業群

伐期の長期化を推進し、針葉樹大径木を主体とした林分又は高木性広葉樹を混交させた林分



複層林施業群

人工造林による育成複層林へ導くための施業を行う林分



分散伐区施業群

分散伐区による育成単層林へ導くための施業を行う林分



複層林施業群 (面的)

一定の範囲において、林齢や樹種の異なる複数のスギ又はヒノキの単層林によって構成される多段林



①天然林の育成複層林

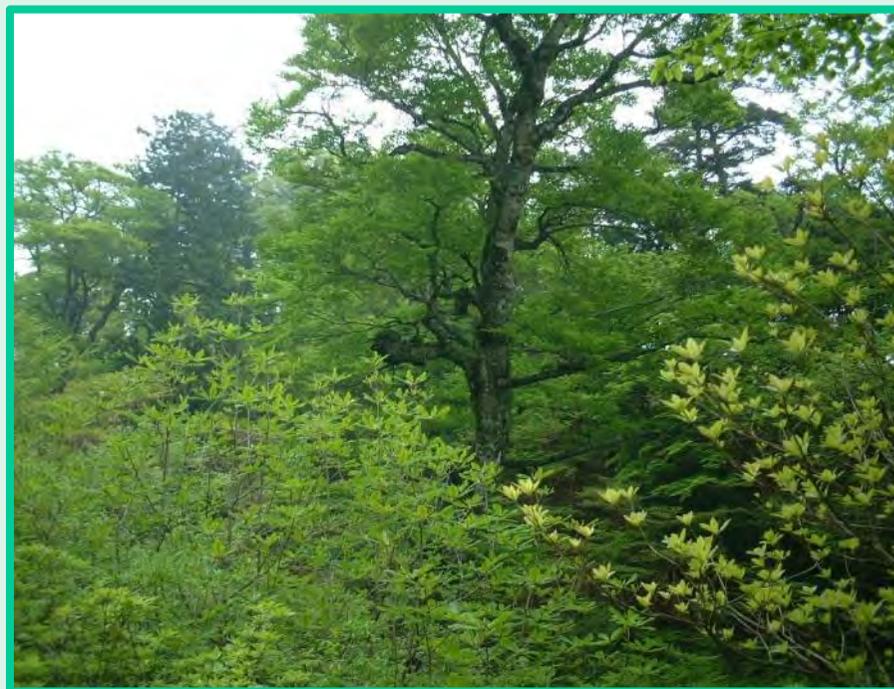
→天然林施業群(長伐期施業群等からの誘導など)

②人工林の育成複層林

→複層林施業群、複層林施業群(面的)

3 自然度の高い森林の保全

保護林周辺や奥山などに分布している自然度が比較的に高い森林については、今年度実施中の保護林モニタリング調査の結果等を踏まえ、適切な保全管理の対象と位置付けて自然維持タイプへの変更等を検討します。



大杉谷森林生態系保護地域

現行計画は別添を参照

南伊勢森林計画区の概況

【南伊勢森林計画区位置図】



- 南伊勢森林計画区は、三重県中央部に位置し、奈良県との県境付近に比較的大きな団地があり、松阪市に小面積の団地が点在
- 森林計画区内の総土地面積228千haに占める国有林野の面積割合は3%（7千ha）
- 森林の総面積165千haのうち国有林野の面積割合は4%
- 吉野熊野国立公園や大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパークが指定されており、ハイキングなど森林を利用したレクリエーション・保健休養の場として多くの人に利用

（該当市）
松阪市、大台町

森林資源の状況

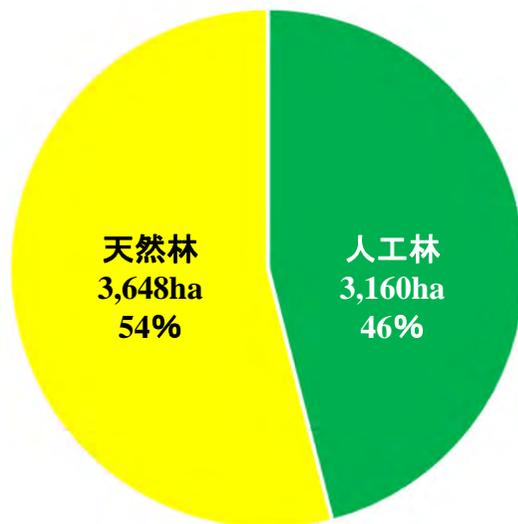
○面積割合は人工林が46%、天然林が54%

○人工林の蓄積割合は、ヒノキ53%、スギ35%

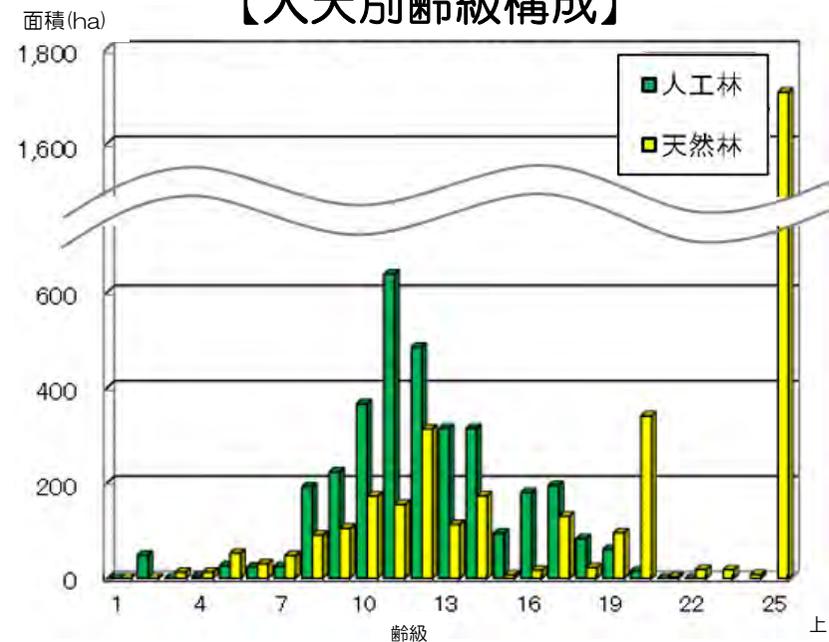
○人工林の齢級は10齢級から14齢級が中心

※齢級とは、森林の年齢(林齢)を5年でひとくくりにし、林齢1~5年生を1齢級、6~10年生を2齢級、以下3齢級・・・と称する。

【人工林・天然林別の割合】



【人天別齢級構成】

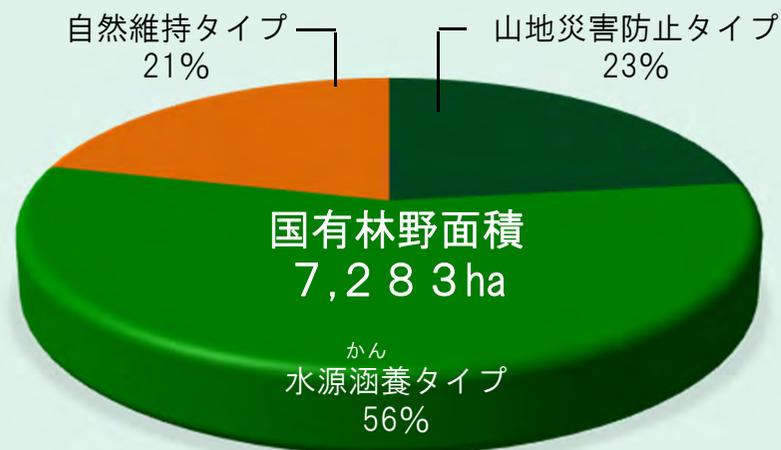


機能類型に応じた管理経営

○重点的に発揮すべき機能によって、森林を5つの機能類型（タイプ）に区分し、適切な管理経営を行っています。

機能類型	面積 (ha)	対象とする森林
山地災害防止タイプ	1,681	土砂崩れや土砂の流出等による山地災害や飛砂、潮害等の気象災害を防ぐことを目的に整備する森林
自然維持タイプ	1,521	原始的な森林生態系や貴重な動植物が生息・生育するなど特別な保全・管理が必要な森林
森林空間利用タイプ		国民の皆さんが森林とふれあう場として、また、森林ボランティア団体等の活動の場としての森林
快適環境形成タイプ		騒音の防備や大気の浄化等生活環境の形成を目的に整備する森林
<small>かん</small> 水源涵養タイプ	4,081	洪水の緩和、水質保全等を目的に整備する森林

【機能類型別割合】
（南伊勢森林計画区）



注：四捨五入により、内訳と合計が一致しない。

主要事業

(現行計画量：R1～R5年度)

• 伐採量

	現行計画量	
	面積 (ha)	材積 (m ³)
主伐	27	8,917
間伐	447	49,568

(事業実績：R1～R3年度)

	事業実績	
	面積 (ha)	材積 (m ³)
主伐	—	—
間伐	162	21,574

• 更新量

現行計画量 (ha)	
人工造林	天然更新
30	89

事業実績 (ha)	
人工造林	天然更新
7	2

• 保育量

現行計画量 (ha)		
下刈	除伐	枝打
90	26	—

事業実績 (ha)		
下刈	除伐	枝打
—	—	—

主要事業

(現行計画量：R1～R5年度)

(事業実績：R1～R3年度)

・林道

現行計画量		
	開設 (m)	改良 (箇所)
数量	1,000	3

事業実績		
	開設 (m)	改良 (箇所)
数量	—	2

林道等総延長 97,815m (令和2年度末)
人工林面積 3,160ha
路網密度 31.0m/ha

・治山

現行計画量	
保全施設 (箇所)	11
保安林整備 (ha)	23

事業実績	
保全施設 (箇所)	1
保安林整備 (ha)	33

公益的機能の維持増進

国土の保全

○保安林及び治山施設の整備

山地災害防止機能や水源涵養機能等を高度に発揮させるため、保安林を配備するとともに、保安林の機能を高めるための治山事業を実施しています。

保安林の総面積7,219ha（国有林野面積に対する比率99%）

保安林の指定状況（H29年度末）

保安林の種類	面積(ha)
水源かん養保安林	6,762
土砂流出防備保安林	457
保健保安林	1,430

※ 保安林種が重複する箇所がある

治山施設の整備状況（R3年度）

治山施設	数量
山腹工箇所数（箇所）	65
治山ダム工基数（基）	80

治山施設の整備実績（R1～R3）

治山施設	数量
山腹工箇所数（箇所）	1
治山ダム工基数（基）	—

国土の保全

○保安林の配備と治山事業

土砂流出防備保安林



深山国有林（松阪市）

治山施設（溪間工）



工事前



工事後

深山国有林（松阪市）

生物多様性の保全

○保護林

2箇所を設定しており、モニタリング調査を定期的を実施

大杉谷森林生態系保護地域



大杉谷国有林（大台町）



種類	名称	特徴等	面積(ha)
森林生態系保護地域	大杉谷森林生態系保護地域	温暖帯性常緑広葉樹林、冷温帯性落葉広葉樹林、亜高山帯性の針葉樹林などの原生的な天然林の保護	1,390.75
希少個体群保護林	大杉谷ツガ・モミ・トガサワラ等希少個体群保護林	大杉谷におけるツガ、モミ、トガサワラ、アカガシの保護	7.10

生物多様性の保全

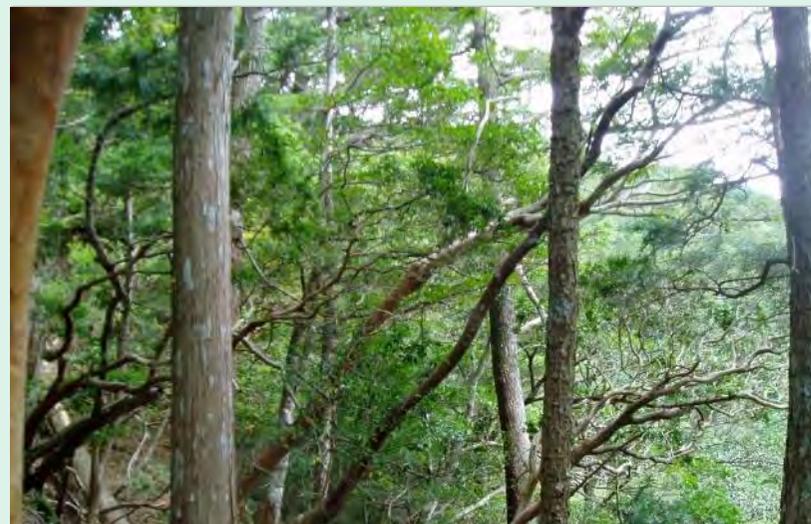
○保護林

大杉谷森林生態系保護地域



大杉谷国有林（大台町）

大杉谷ツガ・モミ・トガサワラ等
希少個体群保護林



大杉谷国有林（大台町）

巨樹・巨木の保護

次世代への財産として健全な形で残していくべき巨樹・巨木について、表示板の設置、周辺森林環境の整備等の保護活動を実施

一本杉（森の巨人たち100選）



大杉谷国有林（大台町）



一本杉

野生生物による森林被害への対応

○ニホンジカによる森林被害への対策

奈良県の大台ヶ原に隣接する大杉谷国有林においては、ニホンジカにより貴重な天然林などが被害を受けています。豊かな森に戻すため、平成24年度に作成した「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」に基づき対策を行っています。



大杉谷国有林（大台町）



林産物の持続的かつ計画的な供給

基本方針② 林産物の持続的かつ計画的な供給

林産物（木材）の安定供給

～ 資源の循環利用 ～

本計画区では、主に60年生以下の林分で間伐を行っており、間引いた樹木を有効利用する観点から、間引きを直線的に行う列状間伐を実施し、間伐材の効率的な搬出を実施

架線集材



令和元年度～3年度実行状況

主伐	—	—
間伐	162ha	21,574m ³
植栽本数	19,291本	
(うちコンテナ苗)	14,590本	

大杉谷国有林（大台町）

林産物(木材)の供給

～ 地形を考慮した間伐、小径木の利用拡大 ～

- 本計画区で生産される木材の約8割は、間伐材です。
- 架線集材と列状間伐を組み合わせ災害に強い間伐を実施しています。
- 小径木や未利用材（D材）は、木質バイオマスへの利用を拡大

高性能林業機械
の活用



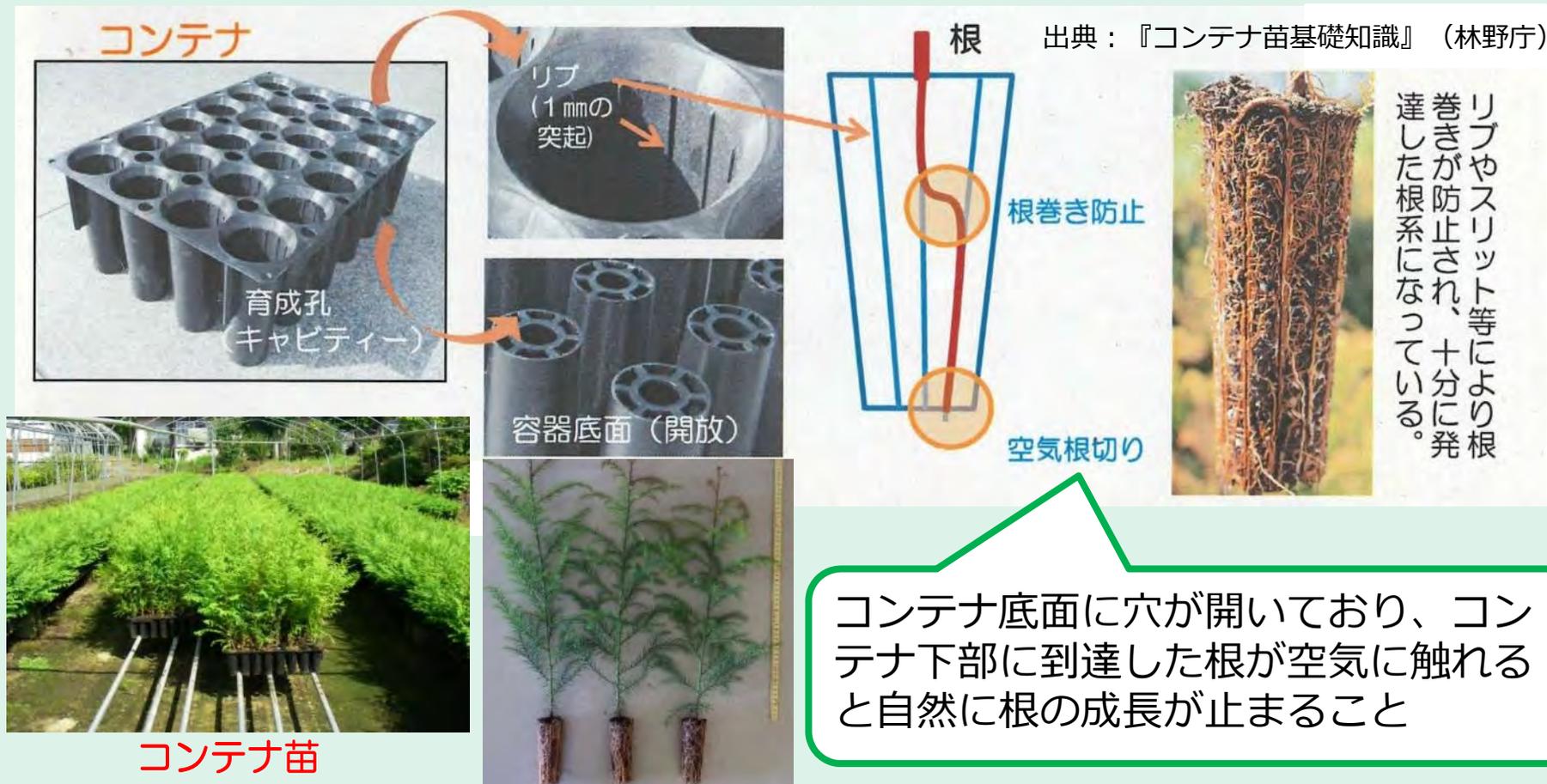
列状間伐の導入



基本方針② 林産物の持続的かつ計画的な供給

低コスト化に向けた取り組み ～ コンテナ苗 ～

- 苗木を育成する容器の内面にリブ（縦筋状の突起）を設け、底面を開けることによって、根巻きしにくい苗木を生産
- 根鉢がコンパクトで小さな植穴で、季節を選ばない効率的な植栽が可能



地域における産業振興及び
住民福祉の向上への寄与

文化財保全への貢献

○文化財継承林

歴史的木造建造物の維持・修繕に備えて「文化財継承林」を設定しています。

文化財継承林（ケヤキ）



名称	面積(ha)	備考
文化財継承林 (ケヤキ)	3.18	深山国有林(松阪市)

森林環境教育の推進

国民参加の森林づくりを推進するため、NPO等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供や必要な技術指導を行うなど、国有林野の積極的な利用を推進します。

また、国有林野の豊かな森林環境を子どもたちに提供するため、学校、自治体、森林インストラクター等多様な主体と連携しつつ、地域の要請に応じた森林環境教育に取り組みます。



大台ヶ原・大杉谷森林再生応援団

令和元年度～3年度実行状況

森林教室等実施回数	5回
-----------	----

参考

国有林で作成する森林計画

